

子どもたちに 核兵器のない世界を

核兵器廃絶メールニュース
現地からの報告

第4号 2010年5月5日

労働者国際交流集会、原水協公開シンポ、教職員交流集会、世界青年のつどい、SEIUとの懇談会などで、反核・平和の連帯を深める

「再び教え子を戦場に送らない」「被爆の実相を伝え廃絶めざす」全教メッセージを呼びかけ

3日の労働者国際交流集会は、全労連と米反戦労働者連盟USLAWとの交流集会として、SEIU 1199支部の講堂を会場に開催されました。全労連・小田川事務局長がNPT再検討会議で核兵器廃絶交渉の合意を求める日本での労働者の運動を報告し、連帯して核廃絶のとりくみをすすめることを訴えました。また、普天間基地問題の解決の道が無条件撤去しかないことを説明し、在日米軍基地の共同調査をよびかけました。

これに応じて、原水協訪米団を受け入れ会場を提供してくれたSEIU 1199支部(NYを中心とした医療介護関係などの労働組合、約20万人)のマリア書記長が歓迎あいさつ。続けて、フランスの平和市長会の代表があいさつしました。フランスからはミホ・シボさんも参加しました。

米反戦労働者連盟が「平和や外交の問題を組織の課題に」と労働運動の転換を報告

米反戦労働者連盟USLAWを代表して報告に立ったマイケル・ツバイグ氏(大学教職員組合NY支部、3万5千人)は、USLAWがイラク反戦運動の中で2003年に労働組合の運動調整組織として発足し、UE(電気機械無線労組)やSEIU 1199支部など500万の組合員を擁する組織であることを紹介し、米国での労働者の反核・平和運動について報告しました。イラク戦争の終結を要求してベトナム反戦以後で最大のデモを成功させたことや、南米コロンビアの米軍基地撤去もたたかったことを報告し、核兵器廃絶と沖縄基地問題について全労連と連帯しとりくんでいくことを表明しました。また、マイケル代表は、USLAWに結集する組合の中で、平和や外交の問題を個人レベルの課題として労働組合がかかわってこなかったアメリカの労働運動について、平和のためにたたかうことは労働者の義務であり、組合組織として関わる必要があるのではないかと、大変な議論を行ってきたことを報告。最大の組合である全米教員組合のニューヨーク支部(組合員60万人)が先週土曜日にアフガン撤退要求を決議したことは、「戦争より生活に予算を」の方向へ運動の重要な転換を示したと述べました。



労働者国際交流集会で、全教横断幕をかがげ、磯崎書記次長が核兵器廃絶の決意を発言

全教から、「核兵器廃絶と人間信頼のメッセージを子どもたちへ」と呼びかけ



USLAWマイケル代表と握手

討論では、全労連の各労組から、被爆体験を継承し廃絶にとりくむ決意、横須賀や沖縄の米軍基地撤去のたたかいなどについて発言しました。全教からは、磯崎書記次長が、平和の課題を労働組合の運動課題とする転換が進んでいるとのUSLAW代表の発言を歓迎し連帯を表明しました。全教が「教え子を再び戦場に送らない」ことを基本にすえて運動をすすめていること報告し、「核兵器廃絶のための国際条約締結に踏み出させることで、人類が作った核兵器は人類の理性と勇気で廃絶できる、人間は信頼でき平和な世界をつくる力を持っているというメッセージを世界の子どもたちに伝えよう」と呼びかけました。

3日、ピースコンサート、原水協代表団の公開シンポを 荘厳なリバーサイドチャーチの大聖堂で開催

会場のリバーサイドチャーチは、キング牧師がベトナム反戦の訴えをしたところ。ピースコンサートには、日本のうたごえ代表団とアメリカの労働者合唱団が参加し、感動いっぱいの歌声を聖堂いっぱいに響かせました。

公開シンポジウムでは、大聖堂をいっぱいに埋めた1600人の参加で、NY行動の成功を確認しました。非同盟諸国を代表して参加したエジプト軍縮大使は、「私たちは昨日のパレードを見に行きました。皆さんの活動に勇気づけられた」と発言。NY国際行動の代表のジョセフ・ガ・ソンさんやイギリス平和運動の代表などが参加。質疑では、都教組、全教千葉、長野長水支部の組合員が相次いで発言しました。



教職員交流集會に56人が参加、運動と教育を交流



4日の教職員交流集會は、ニューヨーク行動に参加する全国の全教・教組共闘の組合員が初めて一堂に会する場となり、22組織47人の組合員のほか、沖縄、宮崎、岩手、神奈川、静岡、東京などの退職組合員も参加し、57人の参加で成功しました。日高教の井村中央執行委員の司会で開会し、全教の磯崎書記次長が最初に、NY行動に全国から32組織75人が参加し（福島県教組からの参加を含む）その中に30人を超える青年がいることを

報告しました。続けて、今回の行動の目的であったNPT再検討会議への署名提出と米市民・労組・平和団体との連帯を基本的に達成していることを確認し、被爆国の教職員として被爆者の体験を継承し核兵器廃絶をめざす教育をすすめてきたとりくみ、中学校3年の英語教科書に載っているSADAKOの教材とこれを勉強した生徒が調べた作品を紹介しました。さらに、NPT会議での核兵器廃絶条約締結の交渉開始合意達成のために、代表団が国民平和行進、署名、NPT行動報告会など運動の先頭に立つことを呼びかけ、8月の原水爆禁止世界大会にはさらに多くの仲間と一緒に参加しようと訴えました。

集會では、ゲストとして呼び出したマーシャル諸島共和国元上院議員のアバッカ・アンジャイン・マディソンさんが、ピキニ水爆実験によるロンゲラップ島民の被爆の実態と今なお続く健康被害について報告し、平和と正義のための連帯を訴えました。また、日本共産党訪米団の井上哲士参議院議員があいさつしました。

参加者の交流では、都教組の立花さんが卒業した6年生が書いた平和の訴えを読み上げ、福島県教組支部の佐藤さんは、生徒会が署名にとりくみ人口比1割を達成したなど、子どもたちの平和への思いを発言しました。京教組女性部の大味さんが千回以上続けてきた6・9行動を報告しパッチワークに込めた願いを紹介しました。高知からは西山委員長が若者3人と参加したこと、愛知高教組からは三木さんが支部からのカンパで11人の代表が高校生が願いをこめて作った折り鶴を持ってNY行動に参加していることを報告しました。宮崎の退職組合員・岩切さんは、都城市で住民の45%の署名を集めたこと、教育委員会部長に要請し全小中学校に署名をおろしてもらい35校から署名が返ってきたことが報告されました。



パッチワークを示し報告する大味さん

全労連を通じて要請していたNYでの学校訪問が、現地で決まり、急きょチラシを配布して参加をお願いしましたが、日程確認の食い違いから、残念ながら4日の訪問はかないませんでした。期待が大きかっただけに残念でしたが、託された原爆写真集や折り鶴はSEIU1199支部を通じて学校に届けてもらうようお願いをしました。全教として、学校にはお詫びのお手紙を出し、日本の平和教育資料と全教のメッセージをあわせて届けます。

核兵器をなくそう！世界の青年パワーが結集！

4日、核兵器なくそう・世界青年のつどい in ニューヨークがSEIU講堂で開かれ、約300人の若者が集って核兵器をなくそうと語り合いました。

会場はぎっしり、立ち見も出るほどの状況で熱気にあふれました。はじめに被爆者の貞清百合子さんがご自身の体験を語り、世界の若者が耳を傾けました。通訳を介して当時の様子に聴き入る参加者たち。時折、うなずいたり眉をひそめたりする姿もみられました。



後半は、各国の代表がスピーチ。イタリア、フランス、ドイツ、アメリカ…それぞれの国でのとりくみや思いが次々に語られ、会場は満場の拍手！その後のショート・スピーチでは日本の若者が次々に発言。ダンスなどのパフォーマンスなどもあり、最後はフランス代表団の合唱！つどいのラストには、原爆写真のパネル一式と日本の子どもたちが作った折り鶴を、各国代表に贈呈しました。

終了後に行われたアフター・パーティでは、ピザを食べながら楽しく交流。写真を撮ったり、話し込んだり、中には海外の参加者と一緒に折り鶴をつくる人も。世界の同世代が、同じ思いをもって活動していることに、勇気と希望をもらいました。

SEIU1199支部と全労連が懇談、世界大会参加を要請

NY行動の最終日の4日、お世話になったSEIU1199支部の本部で、全労連との懇談会に磯崎書記次長が参加しました。SEIU支部の役員が、「私は5万人の看護師を組織している医療関係担当の副委員長です。全労連と心は100%一緒です」「私は老健施設の介護労働者4万人を担当する副委員長です。ベトナム反戦に当初から参加し、核廃絶に一生懸命とりくんでいる」など、次々と表明。沖縄米軍基地の共同調査、原水爆禁止世界大会への参加の要請にも、素晴らしいとりくみだと積極的に受けとめてくれました。格差社会の中で、移民や低賃金労働者を組織し、広い視野でたたかうSEIUのパワーと、全労連の運動が響き合う、楽しい交流ができました。



全教のメッセージを渡し、愛知高教組の折り鶴をプレゼント

国連本部での被爆展をアメリカの中学生が真剣に見学



国連本部のロビーで、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の展示と被爆者の証言が、NPT再検討会議の3日から始まりました。A Message to the World from Hiroshima and Nagasaki と題した展示会場には、親子連れのNY市民が被爆映像を見つめ、先生に引率された中学生が展示を見て話し合ったり折り鶴に挑戦していました。日本からの参加者も、国連を訪れ、被爆展を見学し激励するとともに、NPT再検討会議が開会されている本会議場などを見学しました。

ニューヨーク行動に参加されたみなさん

ごくろうさまでした！

全教のメールニュースも参考に、各地でただちに報告会を行い、運動強化の先頭に立ちましょう。

行動参加の経験や感想を200～300字、写真付きで全教に送ってください。

あて先 s_isozaki@zenkyo.org